

仙台市図書館 2012.4

本の 道の案内

～ 図書館レファレンス事例より ～

目 次

質問内容	ページ
仙台の吉成にある権現森について	1
月の形はなぜ変わるの?	2
時計の見方や時間そのものについてわかる本?	3
高野原の造成前と現在を比べて、その変化を調べたい。.....	4
記念日や祝日のいわれを知りたい。.....	5
奥州街道の道中歌について知りたい。.....	6
宮城師範学校について	7
仙台はなぜ杜の都といわれているのか	8
仙台に上野動物園がやってきたときの新聞記事について	9
近所の街路樹になった実について知りたい。.....	10
仙台白菜の生みの親、沼倉吉兵衛について	11
「青葉茂れる桜井の～」で始まる歌について	12
勾当台公園にある母子像の製作者を知りたい。.....	13
伊達政宗がつくった漢詩について	14
日本の平均寿命と健康寿命の最新データについて	15
浪分神社と津波の深い関係?	16
仙台市の宅地造成時の切土、盛土についてわかる資料は?	17
フランスの牡蠣を宮城県産の牡蠣が助けた?	18
仙台市の広瀬川沿いや、近辺の地形と地質について知りたい。.....	19
レントゲンやラジウム温泉の身体への影響について知りたい。.....	20
震災に関する資料の紹介	



仙台の吉成にある権現森（ごんげんもり）について知りたい。
（小学生からの質問）

広瀬図書館



権現森が仙台市の里山で、神社がある。そこで、次の4つの観点から調べてみた。

地名から・・・『角川日本地名大辞典 4 宮城県』の「葛岡山」（p217）に「江戸の中期には付近の山林に松尾権現社がまつられていたので、権現森とも呼ばれたという(封内風土記)」という記載があった。

山から・・・『深野稔生の宮城の山ガイド』の「権現森」（p50～51）に山の概要や山歩きのコースについて詳しく記載されている。

『宮城のハイキングコース』（p36～39）には、ハイキングコースに関する記述と、権現森温泉についての説明が載っている。

地域のガイドブックから・・・『青葉の散歩手帖』に「松尾神社」についての記載（p200～201）がある。権現森についてもふれられており、権現森と松尾神社の写真も添えられていた。

神社から・・・『仙台市青葉区宮城地区 平成風土記』の「松尾権現社」（p20～21）には神社の歴史と権現思想の説明がある。

■提供した資料

『角川日本地名大辞典 4』（「角川日本地名大辞典」編纂委員会編角川書店 1979年）

『深野稔生の宮城の山ガイド』（深野稔生著 歴史春秋出版 1992年）

『宮城のハイキングコース』（河北新報社開発局出版部編 河北新報社 1989年）

『青葉の散歩手帖』（木村孝文著 宝文堂 2002年）

『仙台市青葉区宮城地区 平成風土記』（平成風土記編集委員会編 新しい杜の都づくり宮城地区協議会 2003年）



月の形はなぜ変わるの？（小学生からの質問）

榴岡図書館



質問者が子どもであるため、児童書の天文関係の書架に案内する。
図解による説明のある資料を中心に選び、提供した。

■提供した資料

『教えて！21世紀星空探検隊 5月・大解剖』（藤井旭著 偕成社 2002年）p6

『なるほどナットク“自然現象” 1 日食・月食・オーロラ』（学研 2009年）
p36～37

『月・太陽・惑星・彗星・流れ星の見かたがわかる本 藤井旭の天体測入門』（藤井旭
著 誠文堂新光社 2007年）p6～7

『月をみよう 科学のアルバム』（藤井旭著 あかね書房 2005年）p2～7

月の形の変化は、月が地球のまわりをまわっていることと関係がある。
地球から月をみると、その位置によって、太陽に照らされている明るい
部分のわりあいが変わる。そのため、月の形はじっさいには変わって
いないのに、満ち欠けしているようにみえる。

（『教えて！21世紀星空探検隊 5月・大解剖』より）





時計の見方や時間そのものについてわかるような本はないか？
(小学低学年からの質問)

太白図書館



時計の見方や、時間の考え方について描かれた絵本はたくさんある。

『とけいのほん 1』 『とけいのほん 2』 (まっいのりこさく 福音館 1993 年)
『まいにちのとけいのえほん』 (うえだしげこ 立体イラスト すずき出版 2002 年)
『いまなんじ？とけいのほん』 (北村富夫作 コンセル 2009 年)
『いまなんじ』 (やましたはるおさく あかね書房 1979 年)

利用者にこれらの本を紹介するが、お話ではなく、時計そのものや時間とはどういうものかをわかりやすく説明しているものがないか、との相談を受ける。

そこで、子どもの本のレファレンスコーナーにある『どの本で調べるか 7』で調べたところ、『はじめてであうじかんのほん』(p17)が紹介されていた。
本を調べるためのデータベース(職員用)を使ってみたところ、『矢玉四郎のちゃんとわかるとけい』が見つかった。

■提供した資料

『はじめてであうじかんのほん』(クレール・ルウェリン作 フレーベル館 1993 年)
『矢玉四郎のちゃんとわかるとけい』(矢玉四郎作絵 ポプラ社 2001 年)

■参考にした資料

『どの本で調べるか 7』(図書館資料研究会編 リブリオ出版 1997 年)

『はじめてであうじかんのほん』

この本は、楽しみながら時間の学習ができるよう工夫されており、一日、一週間、季節、成長と、時間の経過の説明や、さまざまな作業をさせてかかった時間を砂時計で計らせ、時間を体感させる。また、付録の時計を使って、時計の見方を理解させるように工夫されている。

『矢玉四郎のちゃんとわかるとけい』

この本は、とけいを「時」と「分」とに分けることから始まり、短針の動きを12時ちょうど、12時すぎ、12時はん、1時まえ、長針の動きを15分きざみ、10分きざみ、5分きざみと説明していく。そして最後に「時」と「分」をいっしょにして、時計を理解できるようにつくられている。



造成前の高野原（たかのはら）周辺の地図を見たい。現在の高野原と比べてどう変化したかを調べたい。（小学生からの質問）

広瀬図書館



まずは、高野原の造成時期を調べてみる。

『仙台市青葉区宮城地区 平成風土記』のp 77によれば、高野原は平成元年～8年にかけて造成された団地である。

そこで、造成前（1990年以前）と造成後の地図を比較することにした。

高野原造成以前の地図は『宮城町誌 史料編』巻末の「宮城町全図」、現在の高野原の地図は『でっか字 仙台宮城県便利情報地図』（p 25）で確認することができた。

その他、高野原周辺の航空写真が載っている資料3冊も紹介した。

その中の一冊『航空大写真集 宮城県』（p 22）には宮城町の1：50000地形図（昭和55年）が掲載されており、そこでも造成前の高野原周辺を確認することができた。

さらに、市民図書館には1990年以前のゼンリン住宅地図が所蔵されていること、それを見れば住宅地図の比較ができることもお伝えした。

■提供した資料

『宮城町誌 史料編』（宮城町誌編纂委員会編宮城県宮城町役場 1965年）

『でっか字 仙台宮城県便利情報地図』（昭文社 2008年）

『航空大写真集 宮城県』（田辺健一総監修 宮城県教科書供給所 1981年）

『仙台 仙台市垂直航空写真集 2000年』（マップシステムカンパニー 1999年）

『航空写真 空から見た私たちのまち 青葉区西部 2009年版』（マップシステムカンパニー 2009年） ※裏面は1980年版



記念日や祝日のいわれを知りたい、特に八十八夜と下駄の日について知りたい。(小学4年生からの質問)

太白図書館



質問者といっしょに児童書と子育てコーナーで調べてみた。

八十八夜については、月の本をはじめ、複数の事典の索引からも見つかるが、下駄の日については見つけにくく、『年中行事 ポプラディア情報館』(p99)と『はじめて知るみんなの行事とくらし』(p151)、『日本と世界の365日なんでも事典』(p130)『1年366日のひみつ』(p85)に記載がある程度で、資料は少なかった。その他の記念日は、紹介した資料を使って、質問者本人自身が調べた。

■提供した資料

『年中行事 ポプラディア情報館』(ポプラ社 2009年)

『はじめて知るみんなの行事とくらし』(学研 2008年)

『家族で楽しむ日本の行事としきたり』(石田繁美編 ポプラ社 2005年)

『行事の名前のひみつ』(国松俊英文 岩崎書店 2002年)

『1年366日のひみつ』(学研 2005年)

『日本と世界の365日なんでも事典』(こよみ研究会編 ポプラ社 2003年)

<八十八夜>

立春(2月4日頃)から数えて88日目にあたる日のこと。(今の暦で5月1日～3日頃)この頃から暖かくなり霜が降りる心配がなくなるため、農家では稲の種まきなどを始めるところもある。

また、茶摘みにもよい時期で、この時に飲むと健康で長生きといわれ縁起物とされた。

<下駄の日>

下駄の大きさをあらわすのに「七寸七分(ななすん ななぶ)など7がよく使われたので7月に、下駄で歩いたあとが「二二」に見えることから22日を「下駄の日」とした。

(『年中行事 ポプラディア情報館』より)



奥州街道の道中歌について知りたい。できれば、歌の内容も知りたい。

泉図書館



奥州街道と道中歌をキーワードに、郷土資料の書架で探す。

『仙台藩道中物語』の「史料 道中歌と道しるべ」(p 169~188)に道中往来(とうちうわうらい)、奥道中歌(おくどうちゅうた)、仙台道中歌など12件の道中歌が紹介されている。「奥州街道の道中歌」がどれなのかについて、『宮城県百科事典』を調べたところ、次のように記載されていた。

「奥州街道」(p106) …江戸千住一陸奥御厨間にいたる街道。奥州街道は奥州道中とも言われる。そのほかに、奥街道、仙台道中、松前道などと呼ぶこともあった。中略(→奥道中歌)

「奥道中歌」(p135) …おくどうちゅうか 仙台一松前間の宿駅名を歌に詠み込み、仙台以北の奥州街道を紹介した本。1819年(文政2)刊。

「道中往来」(p742) …どうちゅうおうらい 仙台一江戸間の宿駅名を歌に詠み込み、奥州街道を紹介した本。1816年(文化13)刊。『道中歌往来』ともいい、菅原屋安兵衛もこれを『江戸道中往来』の題で発行。広く普及した往来物であった。

『仙台藩道中物語』や『宮城県百科事典』の「奥道中歌」「道中往来」の各項目には、道中歌の全文が記載されているが、それぞれ若干の違いが見られる。

『歴史の道を歩く 東日本編』の奥州街道の頁(p 36~37)には、「文政のころ仙台で開板した奥州道中歌の仙台以北をうたった「奥道中歌」(南の方は道中往来歌)には、三本木から一関までの歌詞を例にして、宿駅の名をうたい込んだものがある。」と記載されている。

『参詣往来』(「古文書を読む会」三十周年記念誌)には、「道中往来」「奥道中歌」の伊勢屋半右衛門版(宮城県図書館所蔵)写真と解説がある。

■提供した資料

『仙台藩道中物語』(高倉淳著 今野印刷 1997年)

『宮城県百科事典』(河北新報社編集 河北新報社 1982年)

『歴史の道を歩く 東日本編』(藤井正大著 柏書房 1983年)

■案内した資料 仙台市民図書館のみ所蔵

『参詣往来 「古文書を読む会」三十周年記念誌』(宮城県古文書を読む会編 宮城県古文書を読む会 2007年)

『道中往来』(伊勢屋半右衛門版 1816年)文化13重刊(マイクロ版有)

道中往来は、「長町や中田の馬を増田まで、もの岩沼に槻木の土手で始まり、奥道中歌は、「国分の町よりここえ七北田よ、富谷茶のんではあは吉岡。」で始まる。版元は伊勢屋半右衛門。作家は諸説あるが、明らかではない。(引用歌は『宮城県百科事典』より)



宮城師範学校について書かれた資料はないか？

特に、今の宮城教育大学になった昭和24年頃のことを知りたい。

市民図書館



県内の学校についての質問なので、郷土資料と学校史の中から探す。

市史・県史をみると、『仙台市史 4 別篇2』「仙台における師範教育」(p137～152)『宮城県史 11』「師範教育の発達」(p249～282)に宮城師範学校について書かれている。

学校史からも調べてみる。

『東北大学百年史 4』(p379～383)「教育学部の創世記」「教養部統合と教員養成の編、再分離問題へ」には教育学部について書かれている。

『東北大学五十年史 下』(p1344)には昭和24年前後の東北大学に包摂された頃のことについて、『宮城教育大学の大学改革』(p21)に東北大学からの分離・独立について、『宮城県教育百年史 3』(p979)に宮城教育大創設についての記述があった。

■提供した資料

『仙台市史 4 別篇2』(仙台市史編纂委員会編纂 万葉堂書店 1975年)

『宮城県史 11』(宮城県著 ぎょうせい 1987年)

『東北大学百年史 4』(東北大学百年史編集委員会編集 東北大学研究教育振興財団 2003年)

『東北大学五十年史 下』(東北大学編 1960年)

『宮城教育大学の大学改革』(日本教育大学教育研究委員会著 日本教育学会大学研究会教育研究委員会 1974年)

『宮城県教育百年史 第3巻 昭和後期編』(宮城県教育委員会[著] 帝国地方行政学会 1975年)

明治5年の学制制定後に設けられた伝修学校は、幾度かの制度の変遷や、女子部の設置・分離・廃止などを経て、官立宮城師範学校(M6)→公立仙台師範学校(M9)→宮城師範学校(M12)→宮城県尋常師範学校(M19)→宮城県師範学校(M31)→宮城師範学校(S18)と名を変えてきた。

昭和21年、日本国憲法、教育基本法が制定され、宮城師範学校は、宮城教育大学への昇格・設置願いが提出された(S22)が、東北大学教育学部に包括されることとなる(S24)。

その後、昭和40年、より資質の高い教員養成の必要性から、教育養成課程が分離され、宮城教育大学が設置された。

(『宮城県史 11』『東北大学百年史 4』より)



仙台はなぜ杜の都といわれているのか。
定禅寺通りのケヤキは、いつ、どういう経緯で植えられたのか。

市民図書館



仙台の図書館ではよくある質問なので、『仙台市史』『宮城県百科事典』を使うとともに、仙台市図書館システムの過去のレファレンス記録を「杜の都」で検索して、次のような資料を提供した。

■提供した資料

- 『仙台市史 通史編6』（仙台市史編さん委員会編集 仙台市 2008年）
p410～415
- 『仙台市史 特別編1』（仙台市史編さん委員会編集 仙台市 1994年）
p406～417
- 『宮城県百科事典』（河北新報社編集 河北新報社 1982年）p805
- 『仙台事物起原考』（菊地勝之助著 ヨークベニマル 1995年）p234～235
- 『杜の都仙台市の街路樹』（八巻芳夫編著 1976年）p34～35
- 『要説宮城の郷土誌』（仙台市民図書館編集 仙台市民図書館 1983年）
p153～157
- 『百年の杜づくり行動計画』（仙台市建設局緑政部緑地計画課 1999年）p5、12
- 『仙台漫歩』（仙台市企画 宝文堂 1984年）p136

仙台藩時代、武家屋敷の屋敷林や社寺林が連なり、まち全体が緑で覆われているたたずまいを持っていたことで「杜の都」と称されてきた。また、青葉山などの点在する丘陵地の緑や、居久根などの緑も合わさり、さらにそのイメージを色濃くしている。

仙台の街路樹は、駅開業に伴って明治24年に南町通にサクラとヤナギが植えられたのが初めである。以後、主要街路に種々植えられてきたが、大部分を戦災で焼失した。

その後の戦後復興計画で、定禅寺通は46メートル道路に拡幅され、昭和33年に156本のケヤキの若木が植栽された。

（『百年の杜づくり行動計画』『宮城県百科事典』『仙台漫歩』より）



昭和25年8月25～30日頃、仙台に上野動物園の移動動物園がやってきたらしいが、その時の新聞記事があれば見たい。

市民図書館



河北新報のマイクロフィルムで昭和25年8月25～30日の河北新報の紙面を確認していただく。

『仙台市史』『八木山物語』『仙台事物起原考』等、郷土資料で動物園に関連のありそうなものを探してみるが、移動動物園のことにふれている記述を見つけることはできなかった。

『上野動物園百年史 本篇』『上野動物園百年史 資料篇』によると、「昭和25年(1950年)4月29日、上野動物園を出発。静岡をかわきりに、甲府・松本・長野と続き、信州・北陸・東北・北海道と東日本を巡業し、仙台には8月24～30日の日程で滞在した」と書かれていた。

再度、マイクロフィルムで、昭和25年8月分の新聞を閲覧していただいたところ、河北新報の昭和25年8月24・25・26日に小さな記事があり、21・24・27日には広告が掲載されていた。

■提供した資料

河北新報マイクロフィルム 昭和25年8月分

■参考にした資料

『上野動物園百年史 本篇』(東京都著 第一法規出版 1982) p255～264

『上野動物園百年史 資料篇』(東京都著 第一法規出版 1982) p773～792

この移動動物園は、インドのネール首相から日本の子ども達に贈られた象の「インディラ」をメインに、ライオン・マントヒヒ等で編成されていた。各地でその人気は沸騰し、子どもだけでなく大人まで総動員で見学する状況であり、雨天続きにもかかわらず、1日平均2万人以上、多い日は5～6万人、少ない日でも1万人以上の有料入場者があった。

しかし、甲府(雨天・開催日数5日)68,651人と並び、仙台(水害・開催日数7日)は特に条件が悪く、入場者数97,979人であった。

(『上野動物園百年史 本篇・資料篇』より)



近所の街路樹に実がなっているので、その名前を知りたい。
これは一般的に食用として使われている実なのだろうか？
この実で果実酒が作れるなら、その製法を知りたい。

若林図書館（協力：太白図書館）



街路樹の実が絵入り、もしくは写真入りで掲載されている本がないかを質問者と
いっしょに探したところ、児童書コーナーで、リーフレット『せんだい街路樹マップ』
が見つかった。

この資料は、「街路樹って何だろう？」「街路樹のはたらき」「樹木ガイド」「街路樹
ガイド」「せんだい樹街路マップ」（仙台市内の道路に植えられた代表的な街路樹が樹
木種類ごとに色分け表示された地図）からなる。

このうち「街路樹ガイド」には絵入りで掲載されていたので、探している実はヤマ
ボウシという樹木の実であることが確認できた。

食べられるかどうかについては、若林図書館が所蔵している資料では見つからないた
め、自然科学分野の資料が充実している太白図書館に協力を依頼したところ、『日本野
生植物館』（p448～449）『原色日本植物図鑑 木本編 1』（p197～198）に食べられ
るとの記載がある旨の回答を得た。

果実酒の製法について、「料理（飲料）」および「食品工業」のコーナーでは本が見
つからないため、郷土資料コーナーを探してみたところ、『宮城の果実酒』（p190～191）
に記載があった。

他の資料も見たいとの希望があり、仙台市内の図書館に協力依頼した。

『果実酒・薬酒』（p140）『野山の草木で酒づくり』（p108）が見つかったので、取り
寄せて、後日提供した。

■提供した資料

『せんだい街路樹マップ』（仙台市建設局百年の杜推進部緑化推進課 2001年）

※最新版（2008年）は市民図書館のみ所蔵

『日本野生植物館』（奥田重俊編著 小学館 1997年）

『原色日本植物図鑑 木本編 1』（北村四郎共著 保育社 1985年）

『宮城の果実酒』（高橋和吉[ほか]共著 河北新報社 1994年）

『果実酒・薬酒』（清水大典 安藤博著 家の光協会 1991年）

『野山の草木で酒づくり』（橋本郁三著 農山漁村文化協会 1988年）

〈質問者へ提供した情報〉

樹木名 : ヤマボウシ（ミズキ科）

食用の可否 : 食べられる。

製法 : 「…果実をよく水洗いし、砂糖とともにホワイトリカーに漬け込む。

熟成には、3ヶ月以上置く」（『宮城の果実酒』より）



仙台白菜の生みの親、沼倉吉兵衛の略歴を知りたい。

泉図書館



農業関係の郷土資料に、『養種園 90 年のあゆみ』がある。この本には、沼倉吉兵衛の略歴 (p15) と仙台白菜の由来、沼倉氏が白菜種子の寄贈を受け、栽培を試みた事実が詳しく記されている。(p 25~28) また、『仙台事物起原考』(p125~126 及び『白菜のなぞ』)には、沼倉氏の白菜に関する記述がある。

略歴としてまとまったものが見たいとのことなので、『人物レファレンス事典 郷土人物編』を調べたところ、『角川日本姓氏歴史人物大辞典 4』(p392) に略歴が見つかった。また、市史・県史関係からも探してみたところ、『宮城県史 29 人物編』(p 216) にも略歴があった。

■提供した資料

- 『角川日本姓氏歴史人物大辞典 4 宮城県姓氏家系大辞典』(角川書店 1994 年)
- 『宮城県史 29 人物史』(宮城県 1986 年)
- 『仙台事物起原考』(菊地勝之助著編 郵辦社 1995 年)
- 『白菜のなぞ』(板倉聖宣著 平凡社 2002 年)
- 『人物レファレンス事典 郷土人物編』(日外アソシエーツ編集部編 日外アソシエーツ 2008 年)
- 『養種園 90 年のあゆみ』(仙台市養種園編 仙台市 1989 年)

沼倉吉兵衛 (1859~1943) についての資料は多いが、『登米町誌 第 4 巻』(p257) 昭和 18 年 1 月 26 日、『仙台市史 7 別編 5』(p134) 昭和 18 年 4 月 23 日、と没年月日に違いがみられるなど、記載違いが多いため、複数資料を提供した。(1859~1943) 登米郡登米町出身。東京駒場農学校に学び、宮城県農学校の教師となった。日清戦争時に、第二師団参謀長がもち帰った芝罘(中国山東省)白菜の種子を、仙台市養種園技師として栽培研究を続け、大正三〇年になって二〇年の苦心が報いられて、品種改良に成功、現在の宮城県特産の仙台白菜を作りあげた。
(『角川日本姓氏歴史人物大辞典 4 宮城県姓氏家系大辞典』より)

安政六年十二月二十八日登米郡登米町生れ。
明治十七年東京駒場農学校卒業、同年宮城県農事講習所現業教師、十八年宮城農学校助教諭、のち教諭に任じ、昭和四年退職するまで四六年間にわたって教べんをとった。また、宮城農試兼務となり、伊達家養種園技師等を兼任、その間、農具の改良、仙台白菜の作出等農業改良発達に功績あり、大日本農会より有功賞を受けた。仙台市根岸の兜塚上に宮城県農学校の教子たちにより胸像(小室達氏作)が建立されている。昭和十八年一月二十八日八四才で没した。

(『宮城県史 29 人物史』より)



「青葉茂れる桜井の～」で始まる歌の歌詞と、その背景を知りたい。

若林図書館



利用者から歌の歌いだしを言われたが、こちらは聞いたことがない歌詞だったので、インターネットで検索。歌の内容が楠木正成親子の伝説であること、戦前の教科書に載り、唱歌にもなっていることがわかった。

「唱歌」「楠木正成」「太平記」、この3方向から調べてみることにした。

「唱歌」・・・『日本のうた 第1集』（p92～93）に明治維新から大正までの253曲が掲載されている。索引「あ行」のところに載っている。

『日本唱歌集』（p56～57）の巻末に「うたいだし索引」があり、歌いだしの「青葉茂れる桜井の～」から探すことができる。

どちらの本にも、挿絵と簡単な解説がある。

「楠木正成」・・・各種人名事典や国史大辞典に掲載されている。

『楠木正成のすべて』（p156～157、p176～、p232～233）では、「楠木正成」の伝記に留まることなく、戦前戦中、江戸初中期そして中世後期と、それぞれの時代の「正成像」の変遷も紹介しているので、この歌の作られた明治時代の「正成像」がわかる。

「太平記」・・・『太平記 三』巻第十六 正成兵庫下向の事（p57～62）に、この歌の背景になった場面が描かれている。また、『史談太平記の超人たち』の第二十章 楠公父子の別れ（p295～302）では、この場面が解説を交えて書かれている。

■提供した資料

『日本のうた 第1集』（野ばら社編集部編 野ばら社 1998年）

『日本唱歌集』（堀内敬三編 岩波書店 1982年）

『楠木正成のすべて』（佐藤和彦編 新人物往来社 1989年）

『史談太平記の超人たち』（上田滋著 中央公論社 1991年）

『太平記 三』（山下宏明校注 新潮社 1983年）



句当台公園にある母子像の製作者を知りたい。できれば、写真も見たい。

榴岡図書館（協力：市民図書館）



郷土資料コーナーの『仙台市彫刻のあるまちづくり』『杜の都の彫刻・12人展』などをみるが、記載はなかった。

インターネットで「句当台公園・親子像」で検索すると、「作品名・平和母子像作者・翁朝盛」とあった。図書館で所蔵しているものがないかを調べてみると、『翁朝盛遺作展』という資料が市民図書館にあることがわかった。

市民図書館に連絡して、この本に「平和母子像」の写真が掲載されていること、この彫刻と同じものがリーフレット『杜の都の彫刻めぐり』及び『杜の都の彫刻めぐり』（p23、26、77）に、作品名「平和祈念像」として載っていること、作者のヨミは「オキナ チョウセイ」となっているとの連絡をもらう。

製作者について書かれた『宮城県百科事典』（p134）を見ていただき、写真については市民図書館を案内した。

■提供した資料

『宮城県百科事典』（河北新報社編 河北新報社 1982年）

■案内した資料

『杜の都の彫刻めぐり』（仙台市建設局百年の杜推進部緑化推進課編 仙台市 2002年）

『杜の都の彫刻めぐり』（仙台市建設局百年の杜推進部緑化推進課編 仙台市 2006年）

『翁朝盛遺作展』（河北新報社 1969年）

製作者：翁 朝盛（オキナ アサモリ）

1906年（明治39）～1968（昭和43）。彫刻家。

本名は「盛（サカリ）」。宮彫師翁家の3代目として、仙台市国分町に生まれる。

（『宮城県百科事典』より）

『杜の都の彫刻めぐり』では「平和祈念像」、『翁朝盛遺作展』では「平和母子像」と紹介されているこの彫刻は、昭和34年、翁朝盛54歳の時の作品。

仙台市の「彫刻のあるまちづくり事業」は、昭和52年に始まったので、それ以前のかなり古い時期に設置された野外彫刻になる。



郷土史の講座で伊達政宗の漢詩について受講したときに、数首紹介されたが、全部で31首あるとの説明を受けた。ほかの漢詩についても知りたい。

市民図書館



最初の手がかりとして、市史を調べてみた。

『仙台市史 資料編 9 仙台藩の文学芸能』（p6）によれば、「政宗の詩文を集めたものとしては、『仙台叢書』に収録の『伊達の松陰』や、近代に刊行された『伊達政宗卿詩歌要釈』があり、後者に漢詩20が収録されている」とあった。

『仙台叢書 第1巻』には、「酔余口号」をはじめ、32首（p83～86）あり、『文武名将伊達政宗卿詩歌要釈』には20首あった。この2冊を比べ合わせてみると、33首あることになる。

その他、政宗の漢詩についての記載がある資料は次のとおり。

『仙台江戸学叢書 11 政宗の文芸』（p18）に「酔余口号」
『みちのくの和歌、遥かなり』（p160）に「酔余口号」2首と「春雪」
『武将歌人 伊達政宗』（p200～212）に18首ある。

■提供した資料

『仙台市史 資料編 9 仙台藩の文学芸能』（仙台市史編さん委員会編集 仙台市 2008年）
『仙台叢書 第1巻 復刻版』（仙台叢書刊行会 1971年）
『文武名将 伊達政宗卿詩歌要釈』（鈴木栄一郎 千坂庸夫著 仙台扶揺会 1935年）
『仙台江戸学叢書 11 政宗の文芸』（綿抜豊昭著 大崎八幡宮 2008年）
『みちのくの和歌、遥かなり』（伊達宗広著 踏青社 1998年）
『武将歌人 伊達政宗』（伊達宗弘著 ぎょうせい 2001年）

武人でありながら文化人でもあった政宗は、晩年たくさんの和歌や漢詩を詠み、花鳥風月を愛でる日々を送った。次の詩はその中の一首である。

「酔余口号」 馬上少年過 世平白髪多
残軀天所赦 不楽是如何

意味： 馬に乗っては血気盛んな少壮の歳月を過ごしたが
いまはもう太平の世となり白髪も多くなった
老いたこの身が残された日々を楽しむことは
もはや天も許してくれるだろう

（『武将歌人 伊達政宗』より）



日本の平均寿命と健康寿命の最新データを知りたい。

若林図書館



最初に、平均寿命と健康寿命の定義を確認する。

- ・平均寿命とは？：0歳児における平均余命。
平均余命とはある国のある年齢の人々が、その後生きられる平均年数。
国勢調査に基づく年齢別死亡率から統計的に算出する。

- ・健康寿命とは？：平均寿命のうち、健康で活動的に暮らせる期間。
WHO（世界保健機関）が提唱した新しい指標で、平均寿命から衰弱・病気・痴呆などによる介護期間を差し引いた寿命のこと。
(データベース：ジャパンナレッジ「デジタル大辞泉」より)

日本は平均寿命だけでなく、健康寿命も世界で最も長く、国際的にみて「自分は健康」と考えている人の割合が多い。(『高齢社会白書 平成 22 年版』(内閣府編 2010年7月より))

各種統計書を調べてみたが、『日本国勢図会』『世界国勢図会』『日本の統計』にはなし。『世界の統計 2011』(p63)に2007年のデータあり。

『高齢社会白書 平成 23 年版』(p27)に欧米及びアジア諸国の健康寿命(2007年)はあったが、平均値のみで、男女別の数値はなし。

最新のデータを知りたいとのことなのでインターネットで、「健康寿命・統計」をキーワードに検索した。総務省統計局のホームページをみたところ、『世界の統計 2011』の電子書籍の該当ページが表示され、内容は同一のものだった。

■提供した資料

『世界の統計 2011』(総務省統計局編 日本統計協会 2011年3月)

■紹介したホームページ

統計局ホームページ/世界の統計第2章人口(2011年10月21日アクセス)

<http://www.stat.go.jp/data/sekai/zuhyou/0216.xls>

	平均寿命	健康寿命 (2007年)
男女平均	83	76
男	79	73
女	86	78

※2012年3月15日に再度アクセスしてみたが、2008年は平均寿命のみで、健康寿命の記載がなかったため、2007年の数値が最新である。



浪分神社が津波と深い関係があると聞いた。どんな内容かを知りたい。

市民図書館



宮城県の地名辞典で浪分神社を探してみると、『日本歴史地名大系 4 宮城県の地名』(p334)の「霞目村」の項に「浪分不動」について書かれていた。

また、『仙台市史 6 仙台民俗誌 別編』(p203)には、「浪分不動 霞目部落の中央、谷風の生家の南隣りで、昔、大津浪の時、大浪がこゝまで押寄せて来て二つに分かれたからといい伝えられる。」とあった。

『若林の散歩手帖』(p146～147)には慶長津波との関連が詳しく書かれている。

地震・津波関連の資料から探してみると、『仙台平野の歴史津波』(p115)に「浪分不動と浪分神社の伝説」が紹介されている。『東日本大震災復興支援地図』(p21)では、浪分神社と今回の東日本大震災の時の浸水地域の位置関係を知ることができる。

■提供した資料

『日本歴史地名大系 4 宮城県の地名』(平凡社 1987年)

『仙台市史 6 仙台民俗誌 別編』(仙台市史編纂委員会編 万葉堂書店 1975年)

『仙台平野の歴史津波』(飯沼勇義著 宝文堂 1995年)

『若林の散歩手帖』(木村孝文著 宝文堂 2000年)

『東日本大震災復興支援地図』(昭文社 2011年)

浪分神社はもとは稲荷神社で、元禄十六年(1703)に八瀬川共同墓地の所に創建した小祠であった。…慶長津波は、井戸浦川、七郷堀を駆け上り、霞目周辺一帯まで及び、現在の神社の位置が浪分けの地となって、こゝより二つに分かれて引いていったといわれている。

これ以来稲荷神社に対する津波鎮撫の霊力信仰が高まり、稲荷神社は波分けの波分けの地に遷座され、その名も「浪分け大明神」と呼ばれた。

(『若林の散歩手帖』より)

Q.

仙台市の宅地造成時の切土、盛土についてわかる資料（地図）を探している。
山を切り崩した土地と、その崩した土を盛って作られた土地の様子がわかる資料はあるか？

宮城野図書館

A.

図書館の蔵書検索で、キーワード「タクチゾウセイ」で検索してみたが、該当資料がなかった。「宅地造成」でも見つからない。

この時、仙台市図書館間情報交換システムに『造成宅地地盤図』の寄贈の知らせが掲示されていた事を思い出し、キーワードを「宅地造成」ではなく、「造成宅地」にして再度検索し直したところ、見つかったので自館所蔵分のみ提供し、市民図書館を案内した。

■提供した資料

『1/25,000 造成宅地地盤図 仙台市北部・富谷町・利府 改訂』

『1/25,000 造成宅地地盤図 仙台市南部・名取市 改訂』

『1/50,000 造成宅地地盤図 仙台周辺 改訂』

(復建技術コンサルタント企画・制作 2008年)

30cm (折りたたみ) 地図1枚

以上宮城野他仙台市7館所蔵

■案内した資料

『造成宅地地盤図』

(復建技術コンサルタント企画・制作 2008年)

60×84cm 索引図1枚 地図21枚

※仙台市民図書館(閲覧用)のみ所蔵



かなり昔、フランスの牡蠣が壊滅状態になった時、宮城県産の牡蠣を送って助けたという話が、最近新聞で紹介されていた。
詳しい経緯を知りたい。

市民図書館



河北新報記事が検索できるデータベースのKD（カーデー）で記事の内容を確認。
2011年7月31日の本紙に「仏からの恩返しに感銘／カキ養殖業（気仙沼市唐桑町）・
畠山重篤さん」という記事に質問の内容が掲載されていた。

三陸関係の地域資料（気仙沼市史、石巻市史等）を調べてみたが、記載されている資料は見つからなかった。

仙台市図書館の蔵書検索システムで「牡蠣」「フランス」などのキーワードを使って調べたところ、『牡蠣礼讃』『フランスを救った牡蠣』が見つかった。『牡蠣礼讃』（p127～142）に記載があり、またこの本の著者である畠山重篤氏は、最初に確認した河北新報の記事にも名前がでていた。他の著作も調べてみたところ、『森は海の恋人』（p99）にも記載があった。

『フランスを救った牡蠣』（p3、p199～211）には、フランスの牡蠣事情を含め、宮城種牡蠣との繋がりが詳しく記されていた。

日経テレコン21のデータベースで、「フランス カキ」で検索すると、2002年12月28日「おとなの楽校（がっこう）」というコーナーの「フランス救った宮城のカキ」で1960年代のことが詳しく紹介されていた。

■提供した資料

『フランスを救った日本の牡蠣』（山本紀久雄著 マルト水産 2003年）

『森は海の恋人』（畠山重篤著 北斗出版 1994年）

『牡蠣礼讃』（畠山重篤著 文藝春秋 2006年）

日経テレコン21 データベース 2002年12月28日「おとなの楽校（がっこう）」

■利用したデータベース

河北新報データベース（KD：カーデー）

日経テレコン21 データベース

「1960年代の終わりから70年代にかけて、フランスの牡蠣が病気になり全滅しかけたことがあった。この危機は、日本のマガキの輸入によって奇跡的に救われた」、「昭和30年代半ばからフランスを中心に牡蠣の大量死が続いたため・・・昭和55年まで宮城種が輸出がされていた」

（『フランスを救った日本の牡蠣』より）



仙台市の広瀬川沿いや、その近辺の丘陵地などの地形と地質について知りたい。

市民図書館



「地形」「地質」「地盤」などをキーワードに、郷土資料を中心に調べる。

仙台市街地は名取川の支流である広瀬川の河岸段丘の上に発達した段丘都市であり、概して西側及び北側が、奥羽山脈東麓部につながる丘陵地帯、また東側及び南側が太平洋につながる平野部という対照的な地形よりなっており、大部分新第三紀(新第三紀につもった地層や噴出した火成岩など)からなり、平坦地の地表近くには第四紀がある。

仙台市街地の周辺にある大年寺山・八木山・北山・旭ヶ丘などの丘陵地一帯は、新第三紀という、比較的新しい時代の地層が重なっている。

仙台の市街地西側に立つ青葉山丘陵を最上段として、仙台の市街地には全部で5段の河岸段丘がみとめられており、各々高い方から、青葉山段丘・台の原段丘・上町段丘・中町段丘・下町段丘と名付けられている。

『1:50,000 地質図 仙台』には、地域ごとに地質の色分けがされている。

そのほか、地盤について調べるには、『1/50,000 造成宅地地盤図 仙台市周辺』などがある。

■提供した資料

『せんだい地学ハイキング』（地学団体研究会仙台支部編 宝文堂 1993年）

『1:50,000 地質図 仙台』（通商産業省工業技術院 地質調査所 1986年）

『仙台周辺（仙台 - 槻木 - 円田 - 秋保 - 根白石 - 塩釜）の地質』（奥津春生著）

『地形・表層地質・土じょう 仙台5万分の1』（経済企画庁 1967年）

『宮城県の地質案内』（宮城県高等学校理科研究会地学部会編 宝文堂 1975年）

『大仙台圏の地盤・地下水』（奥津春生著 宝文堂 1973年）

『1978年 宮城県沖地震調査報告書』（1978年宮城県沖地震調査委員会著 1980年）

〈仙台周辺の地盤〉

近年、都市開発が進むにつれて造成地盤が多くなり、自然な条件を大きく改変することが多くなった。海浜部では埋立てが行われ、平野部では軟弱地盤上に盛土を行い、また、丘陵地では山を削って谷を埋めて、土地造成が行われている。このような造成地盤では、材料の局所的な不均一性が著しく、一般的な性質を論ずるのは困難である。

盛土材料は、付近に切土がある場合にはその掘削土砂を用いることが多いので、その付近の地山の岩質の影響を受けやすいことは事実である。しかし、造成地盤の性質は、盛土材料の性質ばかりではなく、設計や施工方法によって大きく影響されるので注意が必要である。

（『1978年 宮城県沖地震調査報告書』より）



レントゲンやラジウム温泉も放射能に関係があると聞いたが、身体への影響がどんなものなのか知りたい。

市民図書館



「放射能」や「ラジウム」関連の分野、また、放射泉で有名な玉川温泉、有馬温泉などがあることから、温泉関係の資料を探してみた。

『放射線・放射能がよくわかる本』（p20～27）に、レントゲン検査に使うエックス線やCT（コンピュータ断層撮影装置）について、また、放射線の作用についての記載がある。

『放射線と健康』（p188～216）には、医学の立場からみた放射線（エックス線治療、エックス線検診など）について書かれている。

『誰でもわかる放射能 Q&A』（p14）に、Q「ラジウム温泉とかのラジウムも放射性物質ですか」に対して、A「もちろんそうですよ」とある。

『温泉と健康』（p114～120）に、放射能泉についての項があり、ラドンが体内に吸収された際の作用についても詳しく記載されている。

『家庭で楽しめる岩盤浴温泉』（p53～61）に、玉川温泉や三朝（みささ）温泉などのラジウム温泉について、また、放射線の効果やラドン吸入の効果について載っている。

■提供した資料

『放射線・放射能がよくわかる本』（多田順一郎著 オーム社 2011年）

『放射線と健康』（舘野之男著 岩波書店 2001年）

『本当のことがわかる！放射能のすべて』（大島紘二監修 日本文芸社 2011年）

『誰でもわかる放射能 Q&A』（澤田哲生著 イースト・プレス 2011年）

『温泉と健康』（阿岸祐幸著 岩波書店 2009年）

『家庭で楽しめる岩盤浴温泉』（景山司著 現代書林 2006年）

レントゲンなどの被曝量は、胸部 X 線 1 回で 0.05 ミリシーベルト、胃の X 線 1 回が 0.6 ミリシーベルト、CT スキャン 1 回が 6.9 ミリシーベルトとなっている。

（『本当のことがわかる！放射能のすべて』より）

「微量の放射線が細胞組織を活性化して、ホルモンのような活性化を促す効果がある」「ラドンを微量吸引することが身体を活性化する」と考えられている。

（『誰でもわかる放射能 Q&A』より）

本の道案内～図書館レファレンス事例より～

平成 24 年 4 月発行

編集 仙台市図書館

発行 仙台市民図書館

〒980-0821 宮城県仙台市青葉区春日町 2-1

せんだいメディアテーク内

電話 022-261-1585 (代)
